医療連携つつじ 2019年 3月 35号

東京山手メディカルセンター　〒169-0073 新宿区百人町3-22-1
総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366　FAX 03-3365-5951　http://yamate.jcho.go.jp/

TOPIX

▶ 副院長退任にあたって／髙添 正和
▶ 医療連携登録施設のご紹介／
医療法人社団四葉 木島内科クリニック 木島 冨士雄　木島 勇人
▶ 医療総合支援部ソーシャルワーク室／ソーシャルワーカー　柳田 千尋
▶ 第18回 医療連携講演会
▶ 2019年　ゴールデンウイークの診療体制

副院長退任にあたって

髙添　正和

この度私の退任にあたり、常日頃感じていた「医者」という言葉の捉え方の変遷から退任の挨拶をさせていただきます。

変遷：

昭和初期の曽祖父母達が生きていた時代の話をしてみたい。私の故郷である山梨韮崎郊外の医師はあまり報酬を受け取らず自動車ではなく、馬に乗って、患家の依頼に応じて遠いことも厭わず往診を行った。病んだ人や子供を拙い医療器具を用いて、当時としては精一杯の診察判断を注意深く行った。しかし、用いられる医療器具・薬剤も粗末ではあったが、病んだ人達の病床の傍らにいて、患者と家族に安心感を与える観察者であり、なにか処置をするというより病気の成り行きの予言・診断者であった。現代の医師は行動する。薬を処方し、施術し、治療する。その結果、ある視点から見れば、医師と言う職業が心身をケアする者から技術者へ変化してしまったといえる。

現代の医療現場では、忙しく多くの検査項目を選択し、多く処方なければならず、さらには、病床の傍らに居る時間は短く、コンピュータ操作する時間は長くなってしまう。

医療現場の悩み：

医療では、不確かなことが多く、結果が予想と反することが多い。実臨床では不確かなことを理解した上で道筋を決定論的に示さなければならない。長い経過では、経験則に頼りたくなるが良い結果を生むとは限らない。医療は、医師と患者との間に、ある種の盲目的な信頼関係がなければ医療は成り立たないと感じている。医師は、直面する患者の苦悩へ対処するジレンマに直面した経験から勝ち取るものである。

また、病気の多くは慢性疾患であり、病因が明らかになってきても根治に至らないものが多いのも現実である。病因がはっきりして来て“Emerging diseases”と称せられるものも出現し、医療担当者にとってますます手強い病気が拡がりあらためて「継続は力なり」が医療において重要となってきた。

病気を治せない以上、医師達に力強さより慈悲深さがなくてはならないし、基本的な謙虚さが求められる。価値観の差かもしれないが、今や、大病院や大学病院では、患者ケアで研究の時間を無駄にしたくないという不埒な医者がいるのも真実である。

教育：

臨床教育では先輩から後輩への「こつ」の伝授を可能とし、マニュアル通りなら、誰にも出来るし、わざわざ教育は必要ない。いかなる臨床場面に遭遇しても適切な判断や応対が出来る能力を養うことこそが、よき臨床医への登竜門である。日々のカンファレンスは重要で、若手だけでなく、上級医師にとっても教育を通じて学ぶ。

医学の研究：

医療は常に複雑系の世界にあるため、結果は不確定で、揺らいでいると言わざるを得ない。また医療は客観性を基本にしたアプローチである。他人のために判断する人は客観性を持つことが求められる。いかなる視点からも物事を捉える柔軟な能力が求められる。“知る”ための情報科学的手段が多くなったので“知る”事はさほど難しくはないが、本当に判っている事か、わかっていない事かを知るのは依然難しい。

連携の大切さ：

医療は医師のみで完遂されるわけではなく、①患者家族、②多くの職種、③社会制度の利用をサポートする職種、④社会制度支える公的職種などにより社会全体で弱者を助け、助けられるものである。

私事ではありますが、当院において長く従事してきた炎症性腸疾患との関係を述べさせていただきます。消化器内科のレジデントとして、最初の患者がクローン病でした。爾来、40 年以上長く従事できたのは、院内においては看護師、大腸肛門病科医師、栄養師、放射線技師、院外に於いては関係諸先生方のご支援のおかげと思っております。関係各位に深甚の感謝を捧げます。

最後に：

前新宿医師会会長の木島先生との懇談で心に残った病診連携の心の真髄は、世界中で知られている次の文言が役に立ちますよと言われました。

何も言わなくてもいい、何もしなくてもいい、ただ、傍にいるだけで、死への旅立ちは少しだけ楽となる一緒にいてくれる安心感
どんどん温まるのを感じるのが優しさの原点
医療者はどのような時にも優しさを忘れてはならない。

佐原副院長と共に

橋本副院長と共に

医療連携登録施設のご紹介

今回は

医療法人社団四葉会
木島内科クリニック
木島 冨士雄 先生
木島 勇人 先生
です

東京山手メディカルセンターは、専門職としての「技」と「心」を磨き最善の医療を継続的に提供していくことにより、地域の中核病院として社会に貢献することを理念としております。地域住民の皆様の健康増進と疾病克服に対する多様な御要望にお応えすべく、地域医療・在宅医療に携わる先生方と共に未来志向の地域包括ケアシステムを構築して参る所存であります。今後とも倍旧の御支援・御鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

今回、東京山手メディカルセンター「連携つつじ」に、地域連携施設紹介の欄が設けられ、初回に私の診療所を取りあげてもらい感謝しております。木島内科クリニックは、横浜市大医学部病院在職中、恩師金子義宏教授と共に、現在の日本高血圧学会を設立した関係で、循環器疾患を中心にして地域住民の診療は勿論、相談にも乗りながら、息子と一緒に楽しく診療を行っております。

七年前に新宿区医師会長に就任し、種々の点で改革を行ってきましたが、中でも一番力を入れたのが地元の基幹病院と医師会員との連携強化でした。合同二火会を始めとして、病院が主催する講演会、勉強会などで、地域の先生方が積極的に参加していただき、病院の先生方の顔が判り、患者さんを紹介し易い環境作りに努めてまいりました。

私自身、東京山手メディカルセンターに患者さんを紹介する時には必ず、何々科誰々先生御中と、紹介状に御名前を書ける様になっており、御返事も非常に丁寧な御報告をいただいております。

同時に、医師会としては機能分化をより一層推進しております。

診療所では、高額医療機器など購入せず、基幹病院の高度医療機器を用いた検査結果に基づく専門家の返信を参考にして、正確な診断・治療が可能になっております。同時に、会員には常に新しい知識を修得する努力が要求されると思われます。

木島内科クリニックは、表通りに面することも無く、上落合一丁目の住宅街の真中で、ツツジ等の花壇に囲まれたビルの一階にあり、通り過ぎてしまう患者さんも有るくらいですが、一度受診された患者さんは、高齢になっても通院していただいております。通院ができなくなった患者さんは、往診も行っております。待合室には有名な米国の画家「ロックウエル」のレプリカが多数飾られ、患者さんの心を和ませております。一人一人の患者さんの顔を見ながら、患者さんの訴えに耳を傾け、全身を観察する基本的な診療を変えないよう心掛けております。

稿を終えるにあたり、現在の開かれた貴病院の地域連携に力を注いだ、万代前病院長、高添副院長には、種々御協力をいただき本当に感謝申し上げます。同時に、いつも勝手なお願いばかりをしております、地域連携室長笠井先生を始め、諸先生方、連携室担当者、医療相談室の方々には、今後も宜しくお願いいたします。

医療法人社団四葉会　木島内科クリニック
住所　新宿区上落合 1-21-14　パストラール一階
電話　03-3364-6321

医療総合支援部ソーシャルワーク室

ごあいさつ

地域の先生方には平素より何かとご協力を賜り心より感謝申し上げます。当ソーシャルワーク室のある新宿とその周辺には、在宅を可能にする社会資源が充実しています。さらにリハビリができる病院や療養型病院、介護施設などもしかりです。こうした充実した環境があるからこそ、これらを組み合わせて退院支援活動ができると感謝しているところです。また、「医療連携講演会」や「地域との情報交換会」を通して意見交換ができるようになり相互交流が深まっています。そこで今回は当院の退院支援につきまして、活動の一端をご報告いたします。

当院では、ソーシャルワーカー３名（柳田・園田・中田）が２階のソーシャルワーク室におります。月間で 50 ～ 60 件程の特に退院支援の必要な患者さんについて関わっています。ソーシャルワーク室には、面接ブースが２つあります。一つは広めになっており、カンファレンスなど地域の皆様にお越しいただいた際、活用しています。

さらに昨年、退院支援加算１の取得を機に、退院専従看護師４名が各フロアに配置となりました（野寺・笠間・阿野・深田）。毎週月水金の朝、ソーシャルワーク室で個々の患者さんについて相談し、適切なアプローチを考え役割分担をしています。その配置状況は、①５西〔産婦人科･内科〕病棟、②６東・６西〔内科〕病棟、③７東〔大腸肛門科〕・７西〔混合〕病棟、④８東〔整形・脊

椎、脳外科〕・８西〔外科〕病棟です。今年度の速報的数値では、退院支援看護師の病棟面接人数は 1000 人を優に超えております。介護支援連携は 300 を超えるところです。お忙しい中、病院までお越しいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、このように退院支援が手厚くなった背景には、高齢社会における介護問題や慢性疾患の増加に加え、子ども・タバコ・高齢化・精神・肥満などグローバルな健康問題が視野に入る時代を迎えています。治療のみならず、生活環境との兼ね合いに加え、メンタルの問題もからんでくることなどは、日常茶飯事です。そこでソーシャルワーカーも、院内チームや地域連携で知恵を集めて対応する日々を過ごしてきました。そこに前述の強力な助っ人､退院支援看護師の合流となりました。こうして協働できるようになり、患者さん、家族の方とそれを支えようとする地域の人々との話し合いが深まっています。退院前カンファレンスなどでは、写真のブースに入りきれないで行なわれることも度々です。

退院支援ではよく、「患者さんとご家族の意見に相違がみられる」、あるいは「病状の理解にズレが見られる」、あるいは「これまでのケア体制について変更が必要ではないか」などが議論されます。また、同じ言葉でも病院と地域という立場でその解釈が違ったりします。急性期医療の立場だからできる大事なことは、在宅療養中のちょっとしたときの、したほうがよい、しないほうがよい、などのケアの指針ではないでしょうか。その考え方やコメントを相手の職種も考慮して、わか

りやすく伝えることが求められますが、当院のスタッフも慣れないところもあり、情報交換がたどたどしいこともあります。なかなか立場の違う相手の知りたいことがわかる、ということは難しいものです。こうした経験を積むことで、フィールドの違いを知るきっかけになります。急性期病院であり短期間の入院ではありますが、これからも担当医師、担当看護師をはじめ、コメディカルの担当スタッフの参加を充実させて、在宅生活で気になることなど、聞いていただく良い機会になればと思います。

「キュアからケアへ」と専門家は言いますが、相談に見える方々は、そのように単純に考えることが難しいことも多いようです。また、時には厄介な問題が持ち込まれたりします。そのとき、その問題には隠されている何かがあるのではないか、と考えて話を聴いたりします。すると単なる退院先の選定では見えてこない、この地域への愛着を面白おかしく聞かせてくれたりします。できるだけ、その人の人生の奥深さに敏感になれるよう、時には、退院支援看護師と協働で面談し、その人の考えや語りを聴くようにしています。するとその後に、妙にやる気がでてリハビリが進んだり、認知機能が改善するなどの変化が見られたりしました。こうした活動が、退院支援看護師とソーシャルワーカーが協働した最大の成果と思っています。このように退院支援活動が治療に良い意味で影響して、「入院して良かった」と患者様に思っていただけることは、間違いなく元気の源です。

最後に当ソーシャルワーク室のメンバーの自己紹介をさせていただきます。

平素より地域の先生方にはお世話になっております。ソーシャルワーク室の園田恭子と申します。入職して 11 年目となりました。20 代前半になりますが、大久保、高田馬場、新宿、四ツ谷、水道橋界隈で法律を学んでおりました。そのため馴染み深く、新宿は縁がある土地だと思っております。当時は自転車で走り回っておりましたので今でもいざとなれば家庭訪問も行けます。これからも地域との医療連携交流を通じて、より良い在宅療養支援に繋がるよう努めてまいります。

地域の皆様には平素より大変お世話になっております。新卒で入職してから丸２年となりました。何の縁か、当院ご近所の都立高校を卒業した身でありまして、昨今社会人として戻ってきた次第です。懐かしく思いながらも、立場が変わったことで、この地域性やコミュニティへの捉え方を改めて、地域の患者さんや関係機関の方々と関わりながら、日々仕事に邁進しています。至らぬ点も多く、その節はご教授頂いたこともあったかもしれません。この場を借りて、御礼申し上げますと共に、今が MSW としての正念場とも感じており、益々一所懸命頑張りますので、何卒宜しくお願いいたします。中田・拝

この三人と退院支援看護師と一緒に、日々の医療・介護連携を通して、より良い在宅療養支援につながるよう心がけてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。患者さんに元気に過ごしていただけるよう、私たちも伴走していきます！もう 20 年を優に超えた柳田・拝

第18回 医療連携講演会

矢野 哲 院長　ごあいさつ

講演会

今回は外科系のテーマで
開催いたしました

第18回　医療連携講演会

地域の先生をはじめ、医療・介護に携わる皆様を対象にした医療連携講演会のご案内をいたします。
恐縮ですが、万障お繰り合わせのうえご参加くださいますようお願い申し上げます。
今後とも、顔の見える連携がより一層推進できればと念じております。

日時：平成３１年２月２０日（水）１９：３０～
場所：JCHO 東京山手メディカルセンター　講堂（4F）
新宿区百人町３－２２－１　TEL 03-3364-0251（代表）

プログラム

【開会の辞】
ごあいさつ　19:30～19:35
院長　矢野 哲

【講演】
1）乳癌の診断の基本と乳癌診療におけるチーム医療　19:35～20:05
演者：副院長　橋本 政典

2）患者にも医療者にも優しい
東京山手での上部消化管低侵襲手術　20:05～20:35
演者：胃・食道外科医長　久保田 啓介

参照下後、情報交換の場を設けております。
こちらにも奮わせてご臨席いただきますようお願い申し上げます。

*講演会にご参加いただきました先生方におかれましては、「日本医師会生涯教育講座」1単位（カリキュラムコード：10 チーム医療）、その他を取得していただけます。

お問い合わせ　お申込先
JCHO Japan Community Health care Organization
東京山手メディカルセンター　総合医療相談室
〒169-0073 新宿区百人町3－22－1　TEL 03-3364-0251 FAX 03-3365-1951
（お申し込みは当日まで受け付けております。申込用紙は事務室にご利用下さい。）
共催 一般社団法人新宿区医師会

講演１　橋本 政典 副院長

受付

講演２　久保田 啓介 医長

司会　笠井 昭吾 医師
地域医療連携室長

講演会会場

平澤 精一 先生
ごあいさつ

新宿区医師会前会長
木島 冨士雄 先生

懇親会

懇親会会場風景

2019年　ゴールデンウイークの診療体制

当院では患者様の診療が滞ることのないように、連休中は下記の診療体制を取ることとなりました。この３日間は、通常どおりご紹介をお受けしたいと考えておりますので、ご遠慮なく連絡いただければ幸いです。何卒、よろしくお願い申し上げます。

	4月30日(火)	5月1日（水）	5月2日（木）	診療時間：8時30分～11時
消化器内科	○	○	○	
肝臓内科	○	○	○	
炎症性腸疾患	○	○	○	要予約
呼吸器内科	○	○	○	
血液内科	○	○	×	
腎臓内科	○	○	○	
循環器内科	○	○	○	
糖尿病内科	○	○	○	
消化器外科	○	○	○	
心臓血管外科	×	×	×	
呼吸器外科	○	×	○	
大腸肛門科	○	○	○	
脳神経外科	○	○	○	
整形外科	○	○	○	
脊椎外科	○	×	○	
産婦人科	○	○	○	
眼科	×	○	○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	
小児科	○	×	○	
皮膚科	○	○	○	
泌尿器科	○	○	×	
歯科	○	○	○	
健康増進科	○	×	×	

…休診

東京山手（やまて）
メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室　☎　03-3364-0366
FAX 03-3365-5951
http://yamate.jcho.go.jp/

この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています